



## まちづくり事業について紹介します

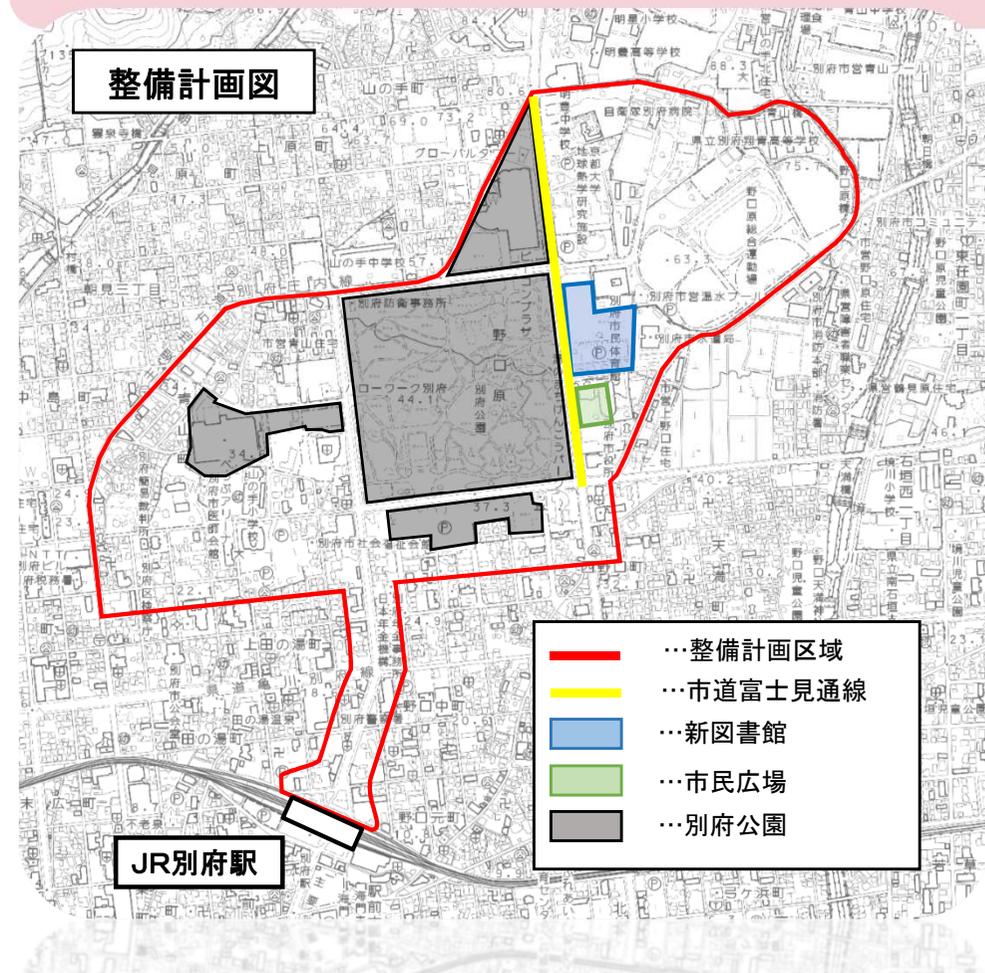
### 【別府市 別府公園周辺地区(R3~R7)】

別府公園周辺地区は、JR別府駅の西側に位置し、市の中心拠点の一部であるとともに、文化活動の拠点として位置づけられている地区であり、幅広い人々が集まり、コミュニティや文化活動の拠点となる場所の形成が必要とされています。

市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しむ公共空間を更新し、賑わいの再生を図るため、新図書館を整備するとともに、周辺の公共施設との連携や地区内の移動の円滑化やアクセスの向上を図るため、歩道の整備や広場の整備など、魅力的な歩行空間の形成を推進します！



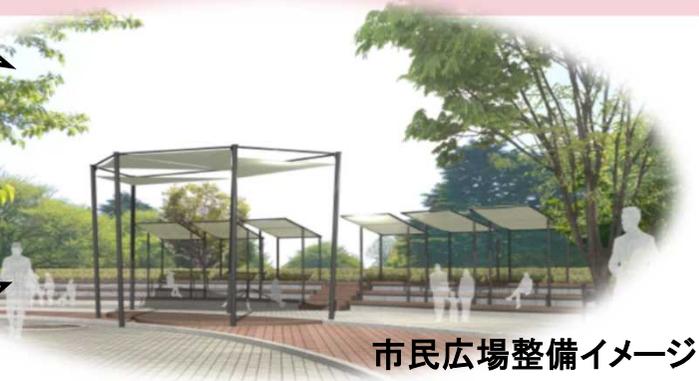
整備計画図



令和3年度は新図書館の設計業務(R3~R4)と市民広場の整備を行いました！

令和4年度は新図書館の設計業務と、市道富士見通線を魅力的な歩行空間とするための検討調査を行う予定です！

### 新図書館整備イメージ



市民広場整備イメージ



別府公園とつながる新図書館



時間帯に応じて利用者や使い方が異なるフレキシブルな空間



本の知識をもとに様々なトライアルやイベントが可能な連携機能



図書館空間と連携機能が一体的につながり、賑わいを生む

# 景観シンポジウムを開催しました★

現在、大分県では、県民・事業者・市町村・県が協働して大分県らしい良好な景観の保全・形成を図るための理念や方針を示す、大分県景観基本計画（仮称）を作成中です。これを契機として、大分県が有する魅力豊かな景観を再確認してもらい、その景観が私たちの日々の生活にどのような恩恵をもたらしているのか見つめ直し、これからの景観づくりについてより理解を深め、景観保全・形成に向けてできることを考えてもらうため、景観シンポジウムを開催しました。  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、録画による動画配信で行いました。

## 『私たちの生活とおおいたの景観』



まず、県から現在策定中の大分県景観基本計画（仮称）に関する説明を行いました。



◆コーディネーター  
高尾忠志氏（(一社) 地域力創造デザインセンター代表理事）



その後のトークセッションでは、県内外で景観に携わられている先生方や県内で景観とともに暮らし、景観づくりに関わっている方々をお迎えして、景観の価値や魅力について事例発表、ディスカッションを行っていただきました！

◇パネリスト  
姫野由香氏（大分大学 理工学部 創生工学科 助教）



◇パネリスト  
柴田 久氏（福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授）



季節とともにある里山の暮らし

## 景観の必要性を知る

景観は、私たちの生活に密接に関わっていることが分かります。

私たちは日々、景観から様々な恩恵を受けて暮らしていますが、それを当たり前と感じてしまいます。米澤氏の事例をご紹介します。景観から受ける恩恵、景観の必要性について考えました。



◇パネリスト  
米澤陽子氏  
（タオ・オーガニック・キッチン 代表）

## 景観のまもり方・つくり方



◇パネリスト  
下村亮介氏（まちづくり雪笹(株) 代表取締役）

県内でまちづくりの活動を行っている下村氏の事例をご紹介します。景観を守る、景観を作るとはどういうことなのか考えました。



酔屋の坂下広場  
活用風景

景観シンポジウムは、YouTubeで動画を公開中です！  
URL・QRコードから、ぜひご視聴ください!(^^)!  
[https://www.youtube.com/watch?v=\\_eIifI9U\\_9c](https://www.youtube.com/watch?v=_eIifI9U_9c)

